

会社概要

あい証券株式会社 本社/東京都港区六本木1-6-1泉ガーデンタワー
7F▶設立・2005年6月▶資本金・6億円

起業家新時代

あい証券

安心のコンサルティングでFX、
商品・証券CFD取引を提供

加藤丈典社長 (59)



2008年9月のリーマン・ショック以降、世界の金融市場は厳しい局面に立たされ、日本も長く景気が低迷している。こうした環境のなか、日本の個人投資家や機関投資家を対象に新しいチャレンジに挑んでいる証券会社がある。

外国為替証拠金(FX)取引から出発したIVTインベストメントバンクは、3月10日に社名を「あい証券」(東京都港区)に変更し、CFD(差額決済取引)と呼ばれる取引で商品や株価指数を対象商品を広げ、事業の拡大を進めている。強みは、24時間対応で注文を受け、相談に対応するプロの専門スタッフが

る点だ。加藤丈典社長は、「この1年は正に、お客様に安心していただけるコンサルティング体制を充実するための時間でした」という。

まず昨年3月にはFX取引会社、フォアランドフォレックスのFX対面事業部門を買収、さらに昨年末には北辰物産のFX対面事業部門の顧客資産を譲り受けるなど、「お客様の細かいニーズや質問に対応できる専門家を揃えました」という。

FX取引とは、証拠金と呼ばれる担保金を業者に預け、その数倍から数十倍の外貨を売買できる。低金利の円と高金利の外貨の間には金利差もあり、日本円と比べて高金利の通貨を比較的長い期間、運用すれば、為替差益を狙うとともに金利収入を得られる可能性もある。05年には法改正でFX取引業者の登録申請や勧誘方法などの規制が強化された結果、個人投資家の間に安心感が広がり、市場は急拡大していった。

商品CFD取引は 業界最低のスプレッド

こうした市場拡大の波に合わせて、あい証券では、電話取引による専門スタッフの拡充を進めてきたわけだ。さらに昨年6月には商品CFD取引も開始した。商品CFD取引も実際の取引の数%の金額で商品取引が可能で、同社では原油、金、銀、

小麦、大豆、トウモロコシを扱っている。「ここ最近、為替相場が膠着状態にあるなかで、商品市況は高騰しています。個人の投資家がより取引に参加しやすい環境。そこで、商品CFD取引に乗り出しました」(加藤社長)。同社の商品CFD取引の強みは他社と比べ、取引条件が有利な点。電話取引なら、例えば金が1オンス1100ドルだった場合、「顧客の買値は1100ドル40セントと40セントの売り買いのスプレッドで購入できます」。競合他社で最も有利な条件の会社でもこのスプレッドは50セント。わずかな金額だが、レバレッジを利かせるCFD取引ではこの差がモノを言う。

商品CFD取引に続き、今年3月から証券CFD取引にも乗り出した。扱うのは日経225先物指数と香港のハンセンインデックスなど。「これでお客様は当社でFX、商品CFD、証券CFDと3つの商品を利用に運用できるようになります」と加藤社長。取引の多くは注文も解約も24時間、インターネットや電話で対応し、投資相談には専門スタッフが対応するという。

実は日本の証券会社で、ハンセンインデックスのCFD取引を行える会社はまだ少ないという。「いずれ中国本土株のインデックスも可能になる日が来ると思います。当社ではそれにいち早く対応できる体制を整え

ています」という。

FX取引から始まった同社の近年の歩みを振り返り、加藤社長は「事業をゼロから組み立てていく喜びと可能性を感じています」という。

大手金融機関では、巨大な人員や拠点の運営のためにレガシー(負の遺産)コストがかかり、思い切ったチャレンジや新しい事業へ参入しづらい面がある。「当社は新しい会社です。レガシーコストがないため、時代の変化に合わせて常に新しいチャレンジができます。その潜在力を感じていきます」(加藤社長)。

FX取引、商品・証券CFD取引に続き、同社ではファンドの販売も検討しており、将来はITや医療などをはじめとして、ファンドの販売も手がけていく方針という。

長く景気が低迷しても豊富な個人金融資産を持つ日本にはまだまだポテンシャルはあるということを、あい証券は事業の拡大で証明しているようだ。

会員募集中



企画協力

毎日起業家クラブ

〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
TEL.03(3213)3070 FAX.03(3213)2838

(編集部)